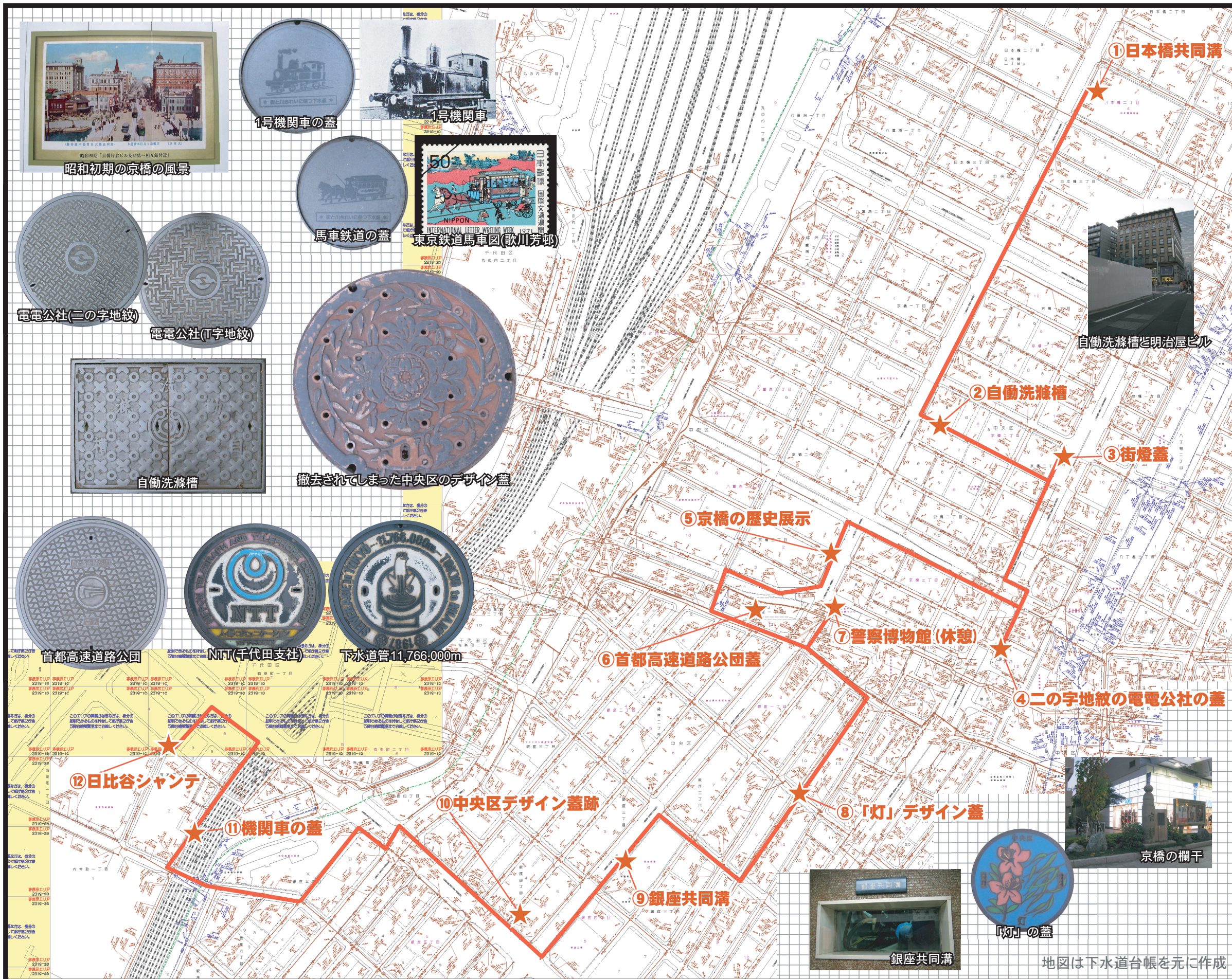


路上の文化遺産と路上の芸術を探して 銀座・目黒谷 蓋探し散策



① 日本橋共同溝

普通はあまり覗くことのできない共同溝の内部を覗くことの出来る点です。電話・電気・通信の他に水道・下水道等の設備を含むものを「共同溝」、含まないものを「電線共同溝」(C.C.BOX)と呼びます。他にも根拠法や埋設物の条件によって、「キャブシステム」「雑線類共同収容溝」「単独地中化」「情報BOX」などの仲間があります。日本橋共同溝は昭和47年6月に建設省の施工で完成しました。建設省が設置した案内板もあります。

② 自働洗滌槽

東京市による下水道事業の初期から存在した「自働洗滌槽」の蓋を見ることができます。自働洗滌槽は下水管の起点に設置され、一定間隔で大量の水を下水管に送り込み、管内の清掃を行うことを目的に設置されました。現在の下水道台帳を見ると「矩形人孔(内法90cm×60cm)」との表記のみなので、現在は自働洗滌槽としては使われていないようです。

③ 街燈蓋

「街燈」と書かれた古い蓋が、歩道橋下の囲いの中にあります。同じ蓋はこの近辺、昭和通り沿いに5枚残っているようですが、これはそのうちの1枚です。

④ 二の字地紋の電電公社の蓋

電電公社の前身は逓信省ですが、その頃から使われていた地紋「二の字地紋」の電電公社時代の蓋がここに 있습니다。電電公社ではその後間もなく「T字地紋」の蓋を使うようになったため、二の字地紋の蓋はとても珍しい存在です。

⑤ 京橋の歴史展示

現在建設中の「(仮称)京橋3-1プロジェクト」では、「京橋の変遷」と題して京橋の過去の風景画や風景写真の展示を行っています。

⑥ 首都高速道路公団の蓋

高速道路周辺には首都高速道路公団の銘やマークが入った蓋を見ることができます。首都高速道路公団のものかどうか不明ですが、中央部が異様に盛り上がった蓋もあります。

⑦ 警察博物館(休憩)

警視庁の歴史と活動に関する資料を多数展示しています。
周辺にはかつて架かっていた京橋の欄干が保存されています。

⑧ 「灯」デザイン蓋

中央区の花・木の「ツツジ」・「ヤナギ」がデザインされた「灯」と書かれた蓋が何枚か並んでいます。街灯関連の蓋のようです。

⑨ 銀座共同溝

銀座共同溝は昭和43年10月に建設省の施工で完成しました。松屋の地下入り口前に観察窓があります。松屋が設置した案内板もあります。

⑩ 中央区デザイン蓋跡

中央区の花・木の「ツツジ」・「ヤナギ」がデザインされた汚水柵の蓋があったのですが、最近撤去されてしまったようです。残念ながら現在は何も残っていませんが、撤去後の蓋の運命をここで解説いたします。

⑪ 機関車の蓋

「1号機関車」(国鉄150形蒸気機関車)がデザインされた蓋と「馬車鉄道」がデザインされた蓋とを見ることができます。

⑫ 日比谷シャンテ

旧日比谷映画劇場・有楽座の跡地再開発によりできたショッピングモール、日比谷シャンテの周辺では、他ではあまり見ることのできない豪華な蓋を見ることができます。そのうちの一つ、下水道局の蓋には、1987年、東京(23区)の下水道管の長さが11,766,000mに及び、東京からマイアミまでの距離に相当すると書かれています。2010年4月現在、東京の下水道管の長さはいは15,830,225mになっており、東京・シドニー間を往復できる距離になります。